

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月5日

【評価実施概要】

事業所番号	3170200517
法人名	医療法人 厚生会
事業所名	グループホーム 白鳥の里
所在地	鳥取県米子市彦名町1210番地1 (電話) 0859-24-7280

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1YNT第10ビル207		
訪問調査日	平成19年10月30日	評価確定日	平成19年12月5日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	11 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建の 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,500 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,380 円		

(4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.4 歳	最低	70 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	米子中海病院、小徳歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

米子市の水鳥公園近くのどかな大自然の中で内科系・リハビリ病院を母体に各種の介護保険事業施設が隣接する。同一敷地内の病院との連絡が緊密で医療管理面(特に重度化や終末期など)や衛生管理面で利用者・家族・職員に安心感がある。中でも当ホームは、特に地域との共存をめざし、認知症高齢者の“あるがまま”を受け止め、近隣の中で高齢者の「陽だまりの場」になると法人代表者はじめ職員一体となって認知症理解の勉強会を続け、日々切磋琢磨している。一対一を基本にゆっくと寄り添うケアを大切に、職員と一緒に風呂に入る等肌の触れ合うコミュニケーション作りは真似が出来ない。公民館活動に積極的に出向いたり、ボランティア等の協力で入居者一人ひとりの埋もれている得意分野を掘り起こし、才能の花がホーム内に開花してきている。利用者の在宅復帰の可能性にも挑戦している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との関わりに関して意欲的に改善できている。しかし、重要事項説明書や契約に関する書類などの見直し、特に日々のケアの中で一番大切にしている“尊厳や利用者の権利を守る”という項目をわかりやすく具体的に明文化して早急に追加し改正されることを望みます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者・管理者・職員は理念を一つに掲げ、日々のケアを振り返って全員で自己評価を行なっている。前回の外部評価の結果は、ミーティングで報告し、細部にわたって見直し・改善に向けて具体案の検討や実践に繋げるための努力をしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議に利用者が3名参加し、生活の中で感じる生の声を発信、地域住民からは災害時の応援の確保対策の具体的な提案が出るなど有意義な会議になっている。地域密着型ホームとして、地域住民からの期待は大きい。ホームの目標「利用者が地区の住民となる」為にも地区公民館などで認知症の出前講座など実施し認知症啓蒙活動を展開されることに期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	徘徊等困難事例の場合には家族と綿密な連絡を取り、話し合いをしている。面会時や電話等での意見や苦情は職員に周知徹底し、サービスの質の向上に反映させている。しかし、ホームの意見箱の利用が全くない事を重く受け止め、市町村の相談窓口や第三者機関など、ホーム以外の外部の人にも意見・苦情を表せるような機会作りの工夫を望みます。利用者の近況報告、広報誌の送付、行事の案内、金銭出納帳の確認等、電話や面会時に随時行われている。家族会があり、運営推進会議に代表が参加し意見を言う場がある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入、公民館行事に積極的に参加交流している。絵手紙月2回・将棋週2回など近隣のボランティアも多く受け入れ、施設農園での芋掘りは近くの保育園の園児たちと一緒に楽しみ、お返しに保育園を利用者が訪問するなど親交を深めている。広報誌も各戸に回覧したり公民館行事に積極的に参加している。地元美容室や喫茶店を利用する等、地元の人々との交流に努めている。将来ホームが近隣の高齢者や子供達の“陽だまりの場”になりたいと大きな夢がある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で検討し、「職員一人ひとりが、入居者の『あるがまま』を受け止め、学び、そして共に支え合い、生活を支援する」を基本に今年度からは「地域の一人として地域活動に参加し、地域住民と交流できるように」と独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者・管理者・職員は理念を一つに掲げ、毎日の申し送りの時に確認しあっており、その理念は施設の各所に掲載されている。採用時の職員教育は勿論、日々の介護の現場でかかわりの振り返りや理念について話し合い、ケアの統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、広報誌を各戸に回覧したり、公民館行事(公民館祭や花火大会等)に参加している。幼稚園児との交流、ボランティアの受け入れ、地元の美容室や喫茶店を利用する等、積極的に地元の人々との交流に努めている。		ご近所で日中独居になる高齢者が気軽にお茶のみなど遊びに来れるような関わりを続け、将来グループホームが近隣の高齢者や子供達の“陽だまり”になれるよう期待しています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の訪問調査で管理者が評価のねらいを理解し、職員全員で評価に取り組んでこられた事はよく分かった。日々のケアを振り返って全員で自己評価を行なわれており、前回の外部評価の結果は、ミーティングで報告し、細部にわたって見直し・改善に向けて具体案の検討や実践に繋げるための努力をしている。	○	前回・前々回の外部評価で指摘された書類関係にかかわる要改善点について改正されることを望みます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回開かれており、報告や情報交換にとどまっていたが、利用者3名も参加するようになってから、生活の中で感じる生の声を発信、地域住民からは災害時の応援の確保対策の具体的な提案が出るなど有意義な会議になってきている。		地域密着型施設として、地域住民からの期待は大きい。ホームの目標「利用者が地区の住民となる」為にも地区公民館などで認知症の出前講座など実施し認知症啓蒙活動を展開されることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の担当者を窓口に、市町村担当者との情報交換や相談が行われており、グループホームの運営やサービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	各担当者が毎月手紙や広報誌で暮らしぶりや行事案内、金銭出納帳確認など行なっている。面会時には必ず日常生活の報告を行ない、行事への誘いをしている。特に徘徊等困難事例の場合には家族と綿密な連絡を取り、話し合いをしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	遠慮なく意見を言ってもらえるような雰囲気づくりをしているが意見箱の利用が全くない。面会時や電話等での意見・苦情は職員に周知徹底し、サービスの質の向上に活かしていている。また、家族会が設けられており、運営推進会議に家族会代表が参加し意見を伺える場がある。	○	法人対応窓口、市町村の相談窓口や第三者委員の設置など、事業所以外の外部の人にも家族等が安心して意見・苦情を表せるよう契約書等の書類の差し替えや追記等行い、既に改善課題に取り組んでいる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットを終日開放し1ユニットの体制で全職員が情報を共有している。今年度3人の職員が進学等の理由で退職しているが法人内からの補充で引継ぎも十分になされ利用者へのダメージは殆どなかった。責任者は離職を少なくする努力をしており、定年退職後を視野に入れた人材育成にも取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の研修(教育委員会)が整っていて、段階的・計画的に学びの機会を作っている。多くの研修は勤務として平等に積極的に参加を促し、毎日のカンファレンスも熱心に行なわれている。他事業者との研究発表も年1回参加し、働きながらケアのレベルアップに取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームとの交換研修に参加し、他のホームに行く事と他のホームの職員を受け入れる事でケアの向上に役立っている。地域包括センター主催の勉強会に参加し、他の施設との交流を図っている。特に平成20年5月に開催される全国大会の事務局を任せられ、同業者のまとめ役・リーダー役としての活動も始まっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用の相談に始まり、入所前の健康診断の時等、利用者と家族と面談し、信頼関係を築く努力がなされている。また利用当初落ち着けない入居者は家族とも相談しながら、本人の思うがままに散歩の支援も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員が共有し、特に入居者の「あるがまま」を受け止める事に留意し、そこから学び支え合う関係を作ろうとしている。食事介助の必要な入居者に隣席の入居者が上手に声かけされると何故か手が動き食べ始める場面もあり、何時も職員は見習っているという。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者自身の語りや、思いを表し難い方はその日その時の行動や小さな動作からその思いを感じ取り思いの把握に努めている。入居者の「あるがまま」を受け止め、利用者本意に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	認知症がありながらも地域で暮らせそうな方の在宅復帰に向けて、本人・家族や地域包括支援センター等関係者と話し合い、個別具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	情報を確認し、家族や本人の要望を取り入れつつ、状態が変化した場合には直ぐ検討、見直しを行っている。基本的には、プランの見直しと達成度チェックは3ヶ月に1回、個別評価は2週間毎に行なわれている。状態が変化した際には、直ぐに検討、見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。また近隣の特に高齢者の「陽だまりの場」になれるように地域住民にお茶のみ声かけも始めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望するかかりつけ医となっている。事業所の協力医の他、個々のかかりつけ医での医療を受けられるよう、家族と協力し通院介助を行ったり、訪問診療にも来てもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については、家族・医師・看護師・介護員を交えて話し合いを行なっている。状態の変化がある毎に、医師からの説明又、家族の気持ちの変化、本人の思いを大切に話し合い、全員で方針を共有し支援している。		敷地内の病院との連携体制は作られているが、夜勤体制についてさらなる検討を望みます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人内に人権擁護研修会があり、定期的に勉強会、又事業所での勉強会やミーティングの時、ケアの現場など折に触れリーダーが利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。言葉かけが気になる時はその都度注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の生活の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしておらず、本人の意志を尊重した支援が行われている。本人の「あるがまま」を大切にしている。お昼寝をしたい方、思うままに散歩に出かけたい方、夕食後に晩酌を楽しむ方、など…一人ひとりのペースを大切にして支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と共に食事の準備や後片付けを行っており、職員も同じテーブルで食事をしている。晩酌を楽しんだり、時々外食をする等、食事を楽しむ支援が行われている。入居者がそれぞれ自分の役割・出番を発揮でき生き生きと生活を楽しんでいる様子うかがえた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴時間帯は決められているが、入居者の希望を出来るだけ取り入れて入浴支援されている。入浴をしたことを忘れて再度一緒の入浴を希望する方、入浴拒否の入居者には、職員と一緒に入浴して安心感を持ってもらえるよう支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で力を発揮してもらい、負担にならない程度にお願いし、感謝の言葉を伝えている。(居室・玄関掃除・洗濯物たたみ・調理・干し柿や漬物作り、畑仕事等) 又外出や地域の行事参加等の楽しみごとを、利用者と相談しながら行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買物ドライブなどに出かけて、帰りには喫茶店でコーヒーを楽しむこともある。又家族の協力もあり図書館やマッサージ、なじみの美容院などこれまでの生活の継続がとぎれないよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	増築で2ユニットになった当ホームには玄関が2箇所ある。日常的に外出をしたくなる利用者もあるが、職員は一人ひとりの入居者のその日その時の気分や状態をきめ細かくキャッチすることで昼間は玄関に鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の消防訓練(消防署参加)、避難訓練実施し特に夜間対応が素早くできるように入居者も参加して訓練している。地域住民に声かけし3名の参加も得ることが出来た。災害に備えた備蓄についても法人として現在検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取状況を毎日チェックし、情報を共有している。快食・快便をモットーに繊維質のある野菜を多く食材に使う、食事量が少ない方には好みに合わせた献立づくり、嚥下の困難な方に軟菜のつぶしや介助方法の工夫・嚥下訓練など状態に応じ個別支援をしている。週1回法人の管理栄養士が献立をチェック、アドバイスも貰っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの畳部屋に掘りごたつがあり、利用者・家族・職員のくつろぎの場所として利用価値が大きい。回廊の中庭は日本庭園風で季節感と光をうまく採り入れている。施設内の各所に家具や緑の鉢物が置かれ家庭的な雰囲気となっており、また一人になれる居場所作りができています。共有スペースの掃除も行き届いていました。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居者の希望に応じて、ベッドのおける洋間と畳部屋がある。室内は自宅から使い慣れた品物が持ち込まれており、それぞれの雰囲気をもてるよう工夫されている。		